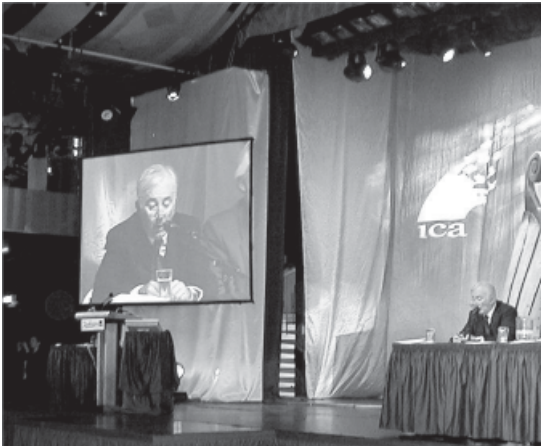


バルベリーニ会長開会挨拶



訳 菅野正純(日本労協連)



ボンデビック・ノルウェー首相、政府高官の皆様、総会参加の皆様、友人の皆様。

まず首相に、本総会にご参加いただいたことを、心から感謝申し上げます。首相のご臨席は、私たちにとって喜びであり名誉であります。

総会の枠組みを準備し、この美しい都市において総会を迎えていただいた、ノルウェーの協同組合人に感謝申し上げます。そして、総会を準備していただいた、来賓およびゲスト・スピーカーの皆様、会員協同組合組織の代表の皆様、ならびにICAスタッフに感謝いたします。

総会にメッセージを寄せていただいた、ノーベル医学賞受賞者、リタ・レヴィ・モンタルチーニ女史に深く感謝します。彼女はそのメッセージの中で、あらゆるところで人々の生活の質を高める、協同組合運動の本質的役割を認めています。

この美しい国において、協同はきわめて古

いルーツを持ち、民主主義・経済および社会の発展と手を携えて成長してきました。

国連事務総長が、そのきわめて重要なメッセージの中で強調されているように、160年前に歴史を始めた協同組合運動は、全世界および全経済部門に広がる現実となりました。困難な変化をくぐりぬけ、危機と成長の間を揺れ動きながら、協同組合運動は確固たる基礎を築き、新世紀の経済・社会の主要な担い手となってきたのです。

このことは、この10年間の成長と、近未来の発展の展望のうちに見ることができません。

協同は、定義によれば、共に対等な条件で事を行うこと、事業と連帯を共にもたらそうとする選択であり、それゆえに、前世紀初頭にそうであったのと同様に、私たちの現在の状況においても有用で有効なものなのです。

《「倫理から切り離された経済」から「自由としての発展」へ》

こうしたすべてのことは、一種の「責任からの逃亡」を主要な特徴とする、支配的な経済文化やグローバル化の過程と、しばしば正反対のところに行き着きます。

協同組合企業とは違って、市場のグローバル化の主要な担い手は、特定の場なしはコミュニティと結びついて発生する心配や責任から自由です。このことが、彼らに競争上の優位性をもたらしていることは、疑いありません。

同時に、こうした責任の欠落は、広範な不安をうみだし、抗議からあきらめまで、様々な形をとって不安が顕在化しています。責任の倫理から切り離された経済発展は、社会的排除という問題を解決することができず、私たちの社会に新たな不平等を生み出しています。

今日、「貧困」という言葉が、全国的・国際的なあらゆるレベルの経済的・政治的議論において、ますます多く、ますます頻繁に現われています。この数十年の間、世界は前例のない経済成長を経験しましたが、貧困と飢餓は、あらゆる意味で、依然、目だって削減されていません。

ロジャースとギビンという二人の歴史家は、次のように書いています。すなわち、貧困の中でも最たる貧困が見られた中世においても、今日の大都市やアフリカで人口のうちの大規模な集団にいま存在するような、希望のない激しい貧困や慢性的な飢餓は存在しなかった、と。

ノーベル経済学賞受賞者、アマルティア・センは、私たちが住む世界には、次のような劇的な剥奪(欠乏)が存在する、と書いています。すなわち、大量の貧困と飢餓、基礎的なニーズの不充足、基本的な権利と自由の侵犯、女性の積極的な役割に対する軽蔑、環境、および私たちの経済的・社会的な持続可能性への、ますます深刻化する脅威です。

これらの剥奪の大半は、あれこれの形をとって、貧しい国と豊かな国の両方に見出すことができます。

これらの課題を克服することが、発展の中心です。真の経済発展とは、GDPの増大をはるかに超えるものです。

自由としての発展 とセンは結論します。政治的・社会的な参加の自由、財と言葉

を交換する自由は、発展の建築材なのです。

それゆえに、社会・経済生活の多くの側面は、相互に関連しています。自由、安全、平和、発展、貧困削減、教育、民主主義です。

平和は、劇的な新しい重要性を帯びてきました。約30の戦争がこの瞬間にも継続中で、それらはみな、メディアから、またその結果、世論から無視されています。

平和が、一挙に解決できる現実ではないことを、私たちは知っています。

平和は、次のことを知ることによって、日々築かれていかなければなりません。すなわち、平和は、多数が正義と認める政治・社会秩序を持った社会を伴うことであるが故に、戦争より複雑である、ということを知ることです。

協同組合は、多様な方法によって、この目的の達成に貢献しています。何よりもまず、組合員が同時に所有者であり利害当事者である、中小規模の企業のネットワークを創造することによってです。

《協同組合の認知から具体的な振興政策へ》

一般に、政府と市民社会組織は、協同組合が果たす役割や、経済発展計画におけるその特別な貢献を評価しています。このことは重要ですが、それだけでは十分ではありません。

この認知は、明確で劇的な政策へと翻訳され、協同組合企業の発展に有利な環境を保証するようにされなければなりません。

他方、国際諸機関は、近年、国連指針やILO193号勧告という、協同組合の発展を強力に支える方策を採用してきました。

しかし、にもかかわらず、協同組合運動についての十分満足できる評価を得た、ということはありません。まだまだ多くのなすべきことがあります。

いくつかの国では、政府の態度は奨励的ですが、他の国々では、協同組合の役割や自立性を縮小する動きがあります。

こうしたことが起こっているすべての国で、国際協同組合同盟は、強力で明確な支援を与えることに取り組んでいます。協同組合の自立性を守ることは、第一に、自由のための闘いであり、そうしたものとして、優先課題です。

協同組合事業体は、特権の享受を求めているものではありません。

法や手段は、単に平等の原則を尊重しなければなりません。すなわち、同じ主体に対しては同じ条件を、異なる主体に対しては、異なる主体を、という原則です。

言い換えれば、協同組合法制は、協同組合が、その相互扶助のアイデンティティと基本的価値を堅持しながら、グローバル市場で競争するために必要な手段を提供するものでなければならないのです。そうした協同組合法制の広範で効果的な適用は、社会進歩と結んだ経済発展という課題に応える、重要な方法となりうるものです。

それは、発達した諸国と発展途上国の双方を、区別なく包含する挑戦課題です。

生産性と経済競争力、組織改革、財務バランス、若者や女性、高齢者のための仕事、といった問題は、経済的先進国における最も重要な行動計画の一部です。

ラテンアメリカやアジアのいくつかの国では、長期の危機的状況を克服し、貧困に打ち勝つことを目指す、重要な社会実験が取り組まれています。

これらの国では、発展につながる回復への道を軌道に乗せる上で、国際機関の支援を活用できるようにしなければなりません。こうした試みの成功は、世界全体の経済と社会の

将来にとって、重要なのです。

《北と南の均衡がとれた世界をめざす協同組合システム》

こうした状況の中で、大きな挑戦課題と機会が、協同組合運動の役割と成長の前に開かれています。

相互扶助と自己決定に基づく、協同組合運動の特殊な連帯の形態は、次のことに貢献するための、積極的な方法なのです。すなわち、すべての発達した諸国で起きている福祉の削減が、社会保護の水準を劇的に低下させず、逆に、社会的不平等や貧困と闘う中で、新たな就労と、発展や効率性にとっての新しい機会をつくりだす、手段になるよう、貢献することです。

共に働く方法を知ることに基づいて、多くの人に共有される考え方は、協同協同組合の経験やエネルギー、協同組合が体現する文化を最もよく表現したものです。

平等で公正な貿易の経験や、知識の共有、技術援助は、私たちが深め拡大する必要がある「優良実践」です。

それらは、協同組合企業の発足や、その成長と運営にとっての、有益な貢献です。

こうして、協同組合システムは、私たちの世界の北と南の両部分の間によりよい均衡に貢献することができるのです。

国際協同組合運動が、アフリカの状況に特に留意することが重要です。アフリカの状況は、国際機関からのあらゆる可能な連帯と支援の取り組みを、強く求めています。

世界が機会よりもリスクによって結び付けられているように思われる、現在の困難な状況の下で、アフリカは極限的な状況を呈しています。

アフリカは、内戦によって荒廃し、全般的

な無関心と児童兵士の徴募、エイズの苦悩、社会の崩壊、ならびに飢饉と渇きによって打ちひしがれた大陸です。多くの国では、人口の50%が清潔な水を利用できずにいます。アフリカ大陸は、世界で最も貧困です。例えば、エチオピアとブルンジのGDPは、年一人当たり107ドル、一日当たり30セント未満です！

悲劇的現実の中の、恐るべき状況がここに示されています。

けれどもそれは、世界全体を巻き込む諸問題に対する証言でもあるのです。

ナイルの水源である、ウガンダのような国においてさえ、水の管理をめぐる紛争があることは、天然資源の中でも最も戦略的なものとして、水がいかに重要であることを示しています。国際コミュニティが時宜を得た介入を行い、水に関わる人々の間に協同を振興できないとすれば、そのことが将来の戦争の理由になることでしょう。

しかし、しばしば無視されるこの大陸の中でも、ある変化がおきています。様々な国において、民主的発展への重要な動きが進行中です。これらの国が、国際機関と世論によって励まされている、というのが実態です。

貧困と闘い、さらにそれを削減することは、第一に人々を動員しなければなりません。自らの状況を自覚し始め、未来は彼ら、自分たち自身と、その政府にかかっている、と感じる人々を動員することです。

けれども、アフリカの場合には、外国からの支援が決定的に重要です。複雑な学習過程を通過することなしに、生存に基礎をおく経済組織のモデルから抜け出すことはできません。この学習過程は、手段や知識、経験を持ち、適切な資源を寄付する人々によって促進されます。

それは、中長期の計画に基づくものでなければなりません。国際システムを設立し、当事者が中小規模の企業を経営し、市場で活動して、新たなイノベーションを振興・実施できるようにするには、それだけの時間が必要です。

この過程での、協同の役割は、重要です。この成長は、その大半が、次のことを実際に示すことにかかっています。すなわち、協同組合によって、彼らが、多くの人々の生活の質と自由を高めることができる、ということを示すことです。

《21世紀の社会をひらく協同組合運動の主体 女性と若者たち》

私たちがこうした問題に取り組み、進行中の過程を継続させることを目指す場合、世界のあらゆる部分で主要な役割を果たすために、女性と若者たちという、二つの主体が否応なく浮上してきます。

一般に、私たちが21世紀社会に立ち向かうことのできる協同組合運動を築こうとするなら、協同組合人の男性と女性の新しい世代に活躍の場を用意し、職業訓練や帰属意識を促進し、とりわけ、彼らを意思決定過程に参加させなければなりません。

私たちが、相互に耳を傾け尊敬し合うことを基礎に、多様な世代の協同組合人の間の関係をさらに発展させることが、決定的に重要です。

けれども、既得の知識や経験は不可欠ですが、それだけでは十分ではありません。それらの知識や経験は、より若い世代の革新的な精神や文化と結合されなければなりません。

この融合が進められるなら、グローバルな次元とローカルな次元がますます相互作用する世界において活動するための、新たなエネ

ルギーとより高い能力を解放することができるでしょう。それらのエネルギーと能力こそ、協同組合運動の生命の新たなサイクルの前提なのです。

若者たちは、この道を一緒に歩み続けなければなりません。こうした理由から、多くの場合、若者のネットワークをグローバルに拡大強化することが必要となってきました。

若者たちが、より積極的に ICA に参加し、より目に見える形と可能性を広げて戦略的選択を自ら行う訓練に加わることが、決定的で有効な道であるように思われます。

こうした理由から、ICA 理事会は、若者たち自身によって選ばれた、ネットワークの代表が、理事会のすべての会合に恒常的に招待されることが重要であると感じています。

《「貧困に対するグローバルな同盟」/ ICA の強力な成長に向かって》

政府の皆様、ご参加の皆様、協同組合人と友人の皆様

経済発展の展望は、文化、社会、政治といった、多様な側面の上に築かれます。

国際政策は、世界の貧困を削減するという、明瞭かつ共有の使命を引き受けました。しかし、現在の見通しは楽観的ではありません。

持続可能で平等かつ民主的な発展という目的や、国連「ミレニアム開発目標」の目的は、それらが、経済成長や、経済的・商業的統合のための政策の有機的な部分となり、社会的緩和剤に委ねられた付録でなくなる時、初めて達成することができます。

協同組合運動は、それがなし得ること以上に、多くの期待を寄せられています。

協同は、ある地方固有の特徴を帯びた問題を解決することはできません。しかし、協同

は、価値と有益な経験を持っていますから、解決策の一部でなければなりません。それらの価値と経験は十分評価され、活用されなければならないのです。

私たちは、ビジョンと具体策を結合しなければなりません。

私たちは、「ユートピアの沃野」を目指し、それらを、理念的な推進力や、この世界で、より良い世界をつくり出す可能性を信ずる多くの人々の関心とエネルギーを呼び覚ます前提としなければなりません。

本総会は、一種の「貧困に対するグローバルな同盟」に道を開こうとするものです。「貧困に対するグローバルな同盟」は、世界の北と南の協同組合組織を具体的に結集し、その共通プロジェクト内部に二国間関係を発展させることのできる、世界的なキャンペーンです。

私たちは、発達した諸国の政府が、私たちのキャンペーンを支援するよう訴えており、南の社会的・経済的発展の支援において強固な伝統を有する、ノルウェー政府と首相が、それらの政府の中でも傑出することを信じています。

協同を通じた経済・社会・民主主義の発展という、本総会のテーマは、この事業を推進する上で、最適のテーマです。

この事業は、短期間に顕著な結果を期待することのできない、困難で複雑な道をたどります。しかし重要なことは、決して終わらないが変化してゆく、一種の「連鎖反応」の決定に合意することです。

世界をあるがままに見るように学び、その進行方向を共に理解しようとすることは、進むべき道をより良く定義する道であるだけでなく、私たちが何であるか、その可能性と重要な相乗効果についての自覚をつくりあげる

道でもあるのです。

文化的な多様性を尊重する、偉大な価値によって結ばれた運動は、積極的な参加や、新しい構成員を迎え変革に加わる意欲を振興します。こうした理由から、協同は、リージョナルとグローバルの両方において、21世紀の経済的・社会的挑戦課題に最も良く応える企業モデルである、と思われまます。

これらすべての挑戦課題において、私たちは「協同の優位性」を持っています。それは、何世代もの協同組合人によって作りだされ、将来の世代に継承・発展させられるべき財産です。

もちろん、これらすべてのことは、自然発生的には起こりません。

未来への扉は狭いのです。そこに入るといふことは、協同組合がグローバル市場の挑戦

に立ち向かい、各国と世界全体でそのイメージを高めること、協同組合運動を希望と信頼に満ちたものとして見ている、女性と男性の、夢を満たし、必要を充足することを意味します。

協同組合の仲間のみなさん、以上のことは、私たちがより強力なICAをつくりあげる責任を引き受けている理由でもあると、私は信じています。

こうした使命感の上に、本総会は、国際協同組合同盟の再組織と成長に向けた、重要なステップを告げています。

私は、こうした理念を体現するICAの、理事長としてみなさんを代表することを、本当に誇りに思い、大きな喜びと共に、私たちの総会の開会を宣言します。

ありがとうございました。

(見出しは訳者)

ILO ファン・ソマビア事務局長挨拶

ICA 総会



訳 菅野正純(日本労協連)

ご招待ありがとうございます。本日みなさんとお会いできて幸せです。

ノルウェーのホストのみなさんに、そのおもてなしに対してだけでなく、協同組合運動支援の豊かなノルウェーの歴史に対して、またこの決定的に重要な領域におけるILOでの主要な役割と私たちとのパートナーシップに対して、感謝申し上げます。

私はチリにおける民主主義を求める闘いを通じて、私自身の経験から、ノルウェーの友人たちが頼りになることを知っています。彼らは流行に従いませんが、正しいと思った人々たちに対して、最も必要なときに、忠実に支

援してくれることでしょう。

それは、協同組合についても同様です。ボンデビック(ノルウェー)首相がこの総会に出席されたことは、そのことをはっきりと示しています。

また、(ブラジルの)ロドリゲス(農業)大臣とこの演壇に同席してきたことは、光栄です。彼がここに参加されていることは、彼が会長

